

病院長就任のご挨拶

病院長 木内 良明



2018年4月1日付で広島大学病院長を拝命いたしました。

広島大学病院は、1.全人的医療の実践、2.優れた医療人の育成、3.新しい医療の探求の三つを理念として掲げ、高度な医療を安全かつ効率的に患者さんに提供することを使命としています。

ダヴィンチ複数体制

本院では、2017年1月から手術支援ロボット「ダヴィンチ」の2台体制で、泌尿器科、婦人科、呼吸器外科、消化器外科の手術を行っています。「ダヴィンチ」は内視鏡手術と同様に小切開で行う手術ですが、内視鏡と違って患者さんの体内を立体的(3D画像)に観察できます。映像を最大約15倍まで拡大することができ、ロボットアームは人間以上に微細な動きができます。患者さんの体に対する負担が少なく、術後の疼痛が少ない、回復が早いという特徴があります。座って手術ができるので術者にも優しい手術と考えられています。広島大学は広島県下唯一の医療機関として医師、歯科医師のみならず、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、歯科技工士など多くの医療職を育てる役割も担っています。医療職は国家試験に合格してもすぐ一人前として働けるわけではありません。医療職は常に研鑽を行うことで成長します。「ダヴィンチ」が2台体制になったことで、次世代の術者を安全に育てることができます。今後、さらに多くの疾患に手術支援ロボット「ダヴィンチ」を応用できるように体制を強化してまいります。

移植医療

臓器移植を行わなければ治療できない疾患も数多く存在します。本院では角膜移植、腎臓移植、肝臓移植などを恒常的に行っています。移植外科チームは中央アジアに位置するカザフスタンに赴いて肝臓移植手術の指導を行いました。角膜移植は年間100件前後行っています。角膜のすべてを全層で移植するのではなく、障害を受けた部分だけ、つまり表層だけに障害がある場合は表層だけ、内層だけに障害があるときは角膜の内層だけを移植するパーツ移植を行っています。パーツ移植を行うことで視機能の回復を早め、拒絶反応を減少させることに成功しています。移植医療は臓器の提供者があって初めて成立する医療です。移植医療に対する県民の皆様のご理解が得られますよう、広島ドナーバンクの活動をこれまで以上に支援していきたいと考えています。

再生医療

再生医療は自然には再生できない組織や臓器を人工的に作り出し、機能を回復させようとする医療です。臓器提供の有無と関係なく治療できる利点があります。広島大学では自家培養軟骨移植に取り組み、再生医療用の細胞加工製品を生み出すことができました。すべて日本で開発されたこの治療方法は日本で初めて、世界で初めての治療手段であり、保険診療内で行うことができます。また、末梢血管疾患、慢性閉塞性動脈硬化症・ペルギー病に対する血管再生治療として自家骨髄幹細胞移植も60例近く行っています。これらの治療方法をさらに改良する研究、新たに臨床応用を目指す研究も多数行われています。本院としては安全かつ新しい治療法の研究開発を促進すべく、サポート体制をさらに充実させたいと考えています。

広島大学病院に要求される事項は年々増えるとともにそのレベルも高くなっています。それらの要求を解決し、世界トップクラスの病院として安全かつ最適、最高の医療を提供できるよう整備を進めてまいります。

【プロフィール】 木内良明(きうち・よしあき)

1958年生まれ。1983年、広島大学医学部医学科卒業。2006年、広島大学大学院医歯薬総合研究科(現在の医歯薬保健学研究科)教授に就任。広島大学医学部長補佐、広島大学病院院長補佐、副院長などを務めた。専門は眼科学。徳島市出身。

ニュースアップ

福島県知事が広島大学長を表敬訪問



越智学長、内堀知事(左から)

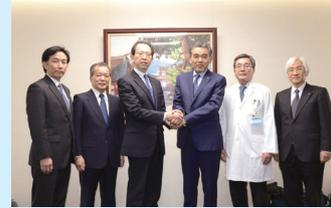
2018年2月8日(木)、福島県の内堀雅雄知事が広島大学のこれまでの医療支援に対するお礼のため、越智光夫広島大学長を表敬訪問しました。

内堀知事は「医療の光が復興を促進します。間もなく7年、光と影が重なり合っていますが、課題を解決して復興を前に進めたいです」と感謝の言葉を述べました。越智学長は「平和を希求する精神が大学の理念です。今回の事故を風化させることがないよう引き続き行動していきたいです」と復興支援への決意を示しました。

東日本大震災・東京電力福島第一原発事故から間もなく7年を迎えます。広島大学は2011年3月の災害発生直後から緊急被ばく医療チームや放射線の専門家など延べ1300人余りを派遣するなど、医療分野を中心とした被災地の復興支援に取り組んできました。2016年10月からは、内科医が福島県立医科大学に出向、さらに今年5月からは救急医も出向する予定で、引き続き福島県双葉地域の診療体制構築に協力していきます。



出向した山口助教・内堀知事・木村助教(左から)



福島県立医科大学 谷川副理事長
福島県立医科大学 菊地常任顧問
内堀福島県知事
越智広島大学長
平川広島大学病院長
神谷広島大学副学長(左から)

「チャレンジふくしまフォーラムin中四国」で
広島大学がブースを出展

2018年2月7日(水)午後、福島県の復興状況や今後の取り組みなどを紹介する「チャレンジふくしまフォーラムin中四国」(主催:福島県)が広島市中区のホテルで開かれました。内堀知事は「希望、危機意識、挑戦をキーワードに、原子力に依存しない再生エネルギーなどの新産業の創出に取り組んでいます」と未来を説明しました。2011年3月の災害発生直後から被災地の復興支援に取り組んできた広島大学は、福島県立医科大学と共同で会場にブースを設置しました。フォーラムに参加した約170人の来場者に、これまでの医療支援の歩みや今後の取り組みを紹介したほか、にしき堂のご厚意により産学連携商品のサンプル配布も行いました。



フォーラムで説明する内堀知事



湯崎広島県知事(中央)も登壇



広島大学と福島県立医科大学のブース



サンフレとのコラボ
てんかん疾患啓発活動

広島大学病院(てんかんセンター)は、2018年3月18日(日)エディオンスタジアム広島で、てんかん疾患啓発活動の第4弾を行いました。世界的なてんかん啓発活動の日「パープルデー」(3月26日)を前に、紫がチームカラーのサンフレッチェ広島とのコラボレーション企画です。



寄せられた多くのメッセージ



啓発活動に参加したボランティアの皆さん

スタジアムのお祭り広場に啓発ブースを設置、医療関係者やてんかん協会のメンバーなど50名余りが参加して、サンフレッチェのマスコット・サンチェ君をあしらった2種類の缶バッジやてんかんを説明するチラシ3000部を配布。サンフレッチェの選手のメッセージ入りの横断幕には、多くのサポーターがてんかんへの思いやサンフレッチェへの応援メッセージを書き込んでいました。また、試合前にはスタジアムの大型映像装置で、青山敏弘、千葉和彦両選手のてんかん疾患啓発メッセージも放映されました。

広島大学病院(2015年広島県てんかん診療拠点機関に指定)がサンフレッチェ広島とコラボレーションすることで、一人でも多くのサポーターにてんかんに対する正しい理解をもってもらい、てんかん患者さんが過ごしやすい社会の実現をめざしています。



お祭り広場にブースを設置



缶バッジやチラシの配布



横断幕へメッセージを書き込む

患者満足度調査

概ね高い満足度

昨年に引き続き「待ち時間」「駐車場」には厳しい声

2017年11月に実施した患者満足度調査の結果、「満足」及び「普通」という評価が全ての項目で90%を超えました。その一方で、待ち時間や駐車場については不満の声も目立ちました。

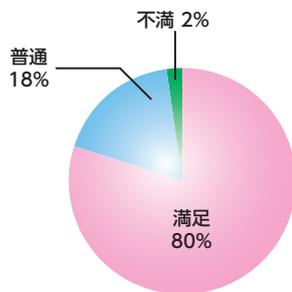
調査は外来患者さん1,100人、11月中に退院された入院患者さん875人を対象にアンケート方式で実施しました。回収率は外来92.3%、入院41.9%でした。結果の概要は次のとおりです。

外 来

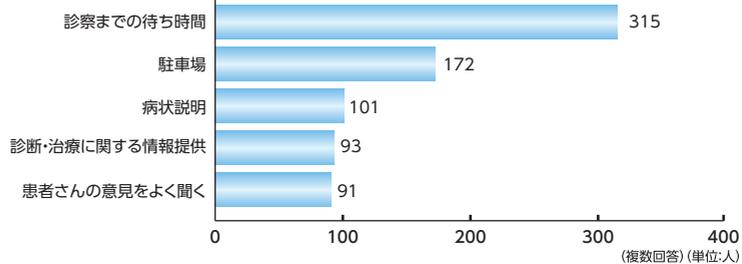
質問内容は、「施設・設備」「受付及び会計窓口」「医師の診察」「歯科医師の診察」「看護職員への対応」「歯科衛生士の対応」「検査・リハビリ等」「全般」の8項目です。全ての項目で「満足」「普通」の合計が90%を超えました。

個別の項目では「当院にきて良かったと思いますか」について、98.2%の患者さんから「満足」「普通」の評価をいただきました。一方、「診察までの待ち時間」の満足度は32.4%、「会計の待ち時間」は54.5%にとどまり、待ち時間の長さに対する厳しい視線がうかがえました。

特に改善が必要な項目のトップ3は①診察までの待ち時間②駐車場③病状説明でした。



「特に改善が必要である」と思われる項目（上位5項目）

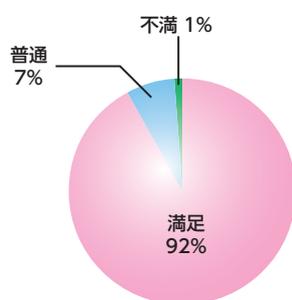


入 院

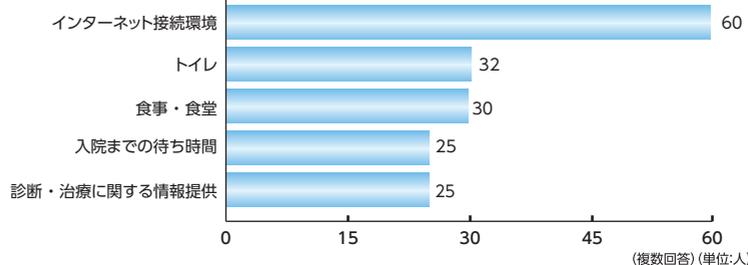
「入退院」「施設・入院生活」「食事」「医師」「看護職員」「その他の職員」「全般」に分けた7項目全てで「満足」「普通」が90%を超えました。

個別の項目でとりわけ「満足」の割合が多かったのは「当院にきて良かったと思う」(94.2%)、「看護職員の話しやすい雰囲気」(92.8%)、「担当の医師に信頼感が持てる」(92.6%)でした。

改善が必要と思われる項目では「インターネット接続環境」が最も多く、「トイレ」が続きました。



「特に改善が必要である」と思われる項目（上位5項目）



たくさんの自由記述も含め、貴重な意見をありがとうございました。皆さまが利用しやすい病院となるよう、待ち時間及び施設・設備の改善に向けて職員一同努めてまいります。

栄養管理部
情報

朝食を 食べましょう!



担当した管理栄養士



朝ごはんは、**1日の始まりに欠かせない大切なエネルギー源**です。しっかり朝ごはんを食べて、1日を元気にスタートさせましょう!



朝ごはんの役割

体温の上昇・エネルギー補給



睡眠中に下がった体温を上げ、体を目覚めさせる。
→朝から元気に過ごすことができます。

脳の活性化



エネルギーが脳に供給される。
→勉強や仕事に集中できます。

排便の促進



食べ物をとることで、消化管が活動を開始する。
→排便を促し、便秘を防ぐことができます。

肥満の予防



朝食を抜くと、空腹感から他の食事の時に量が増えてしまう。
→肥満につながりやすいと言われています。

バランスの良い朝食を食べよう

主食(炭水化物)主菜(たんぱく質)副菜(野菜)の揃った朝ごはんを心がけましょう。
その他にも、1日のうちに牛乳・乳製品や果物が加わるとよいですね。

体温を上げる働きがあります。



主菜



副菜

主食

副菜

脳のエネルギー源となります。



体調を整え排便を促す効果があります。



おすすめ簡単レシピ

カルシウムたっぷり チーズじゃこオムレツ

材料(1人分)
卵……1個

牛乳……20cc

ナチュラルチーズ……20g

ちりめんじゃこ……5g



合計 カルシウム 145mg

病院からのお知らせ

院内がん登録 広島大学病院のがん診療の実績を更新しました。

2016年の広島大学病院のがん診療の実績を
がん治療センターのホームページで紹介をしています

院内がん登録とは？

病院を受診された外来患者さん、入院患者さんを問わず、全てのがんについて診断・治療に関する情報を集め、整理・保管し、集計・解析をする仕組みです。がん患者さんとそのご家族に対して医療機関の選択を支援する為の
情報です。

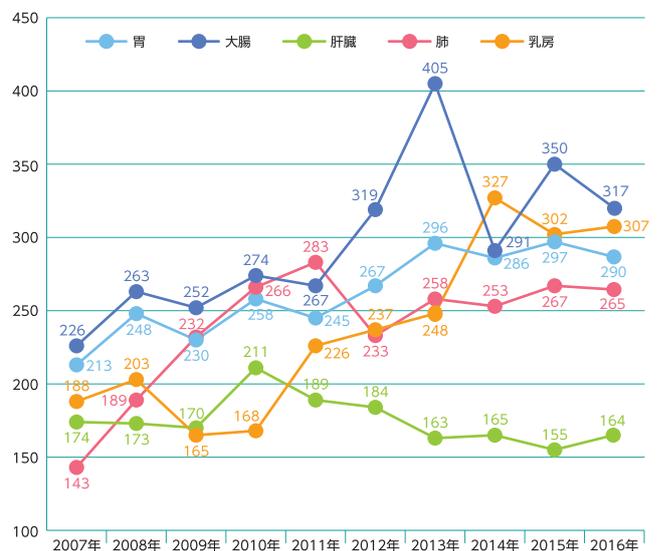
国立がん研究センターの研修を修了した、がん登録実務者が登録をしています。

「広島大学病院 院内がん登録」で検索 https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/cancer/innaigan_touroku

部位別 院内がん登録登録件数 (2016年)

部位	登録件数
口腔・咽頭	157
食道	128
胃	290
大腸	317
肝臓	164
胆嚢・胆管	37
膵臓	92
喉頭	12
肺	265
骨・軟部組織	48
皮膚	85
乳房	307
子宮頸部	76
子宮体部	38
卵巣	25
前立腺	159
腎・他の尿路	76
膀胱	60
脳・中枢神経	138
甲状腺	71
リンパ腫	143
多発性骨髄腫	19
白血病	36
その他の造血器腫瘍	27
その他	112
合計	2,882

5大がん別・院内がん登録登録件数 (2007年~2016年)



※当該腫瘍初診日及び診断日:2007年1月1日~2016年12月31日
1腫瘍1登録
全部位(外来・入院全症例) 部位についてはICD-O3により分類)

催しのご案内 (2018年4月~6月)

がん治療を支える患者サロン

悪性リンパ腫の基礎と治療について

4月19日(木) 13:30~14:30 場所: 3F2会議室
講師: 血液内科医師 福島 伯泰

—がん治療を支える— 抗がん剤の副作用と生活について

5月17日(木) 13:30~14:30 場所: 2F1会議室
講師: がん化学療法看護認定看護師 平木 和美

—がん治療を支える— リンパ浮腫の予防とケア

6月21日(木) 13:30~14:30 場所: 3F2会議室
講師: がん看護専門看護師 山口 真由美

患者・家族が同じ目線で

がん患者おしゃべり会

4月24日(火) 13:30~14:30

5月22日(火) 13:30~14:30

6月26日(火) 13:30~14:30

会場: 診療棟2階 情報プラザ

いずれも問い合わせは:
がん相談支援センター ☎082-257-1525